

統合失調症と家族

ハートクリニック家族教室

2019年6月2日

池間 出

- ・統合失調症の概要
- ・統合失調症の治療
- ・統合失調症患者さんの家族対応

- ・ 統合失調症の概要
- ・ 統合失調症の治療
- ・ 統合失調症患者さんの家族対応

疫学

- ・ 思春期から青年期に発症することが多い
- ・ 発症頻度は、約100人に1人

原因

- 中枢神経の脆弱性
…ストレスに対する脆さ
- 思春期までの家庭環境や
社会環境の影響

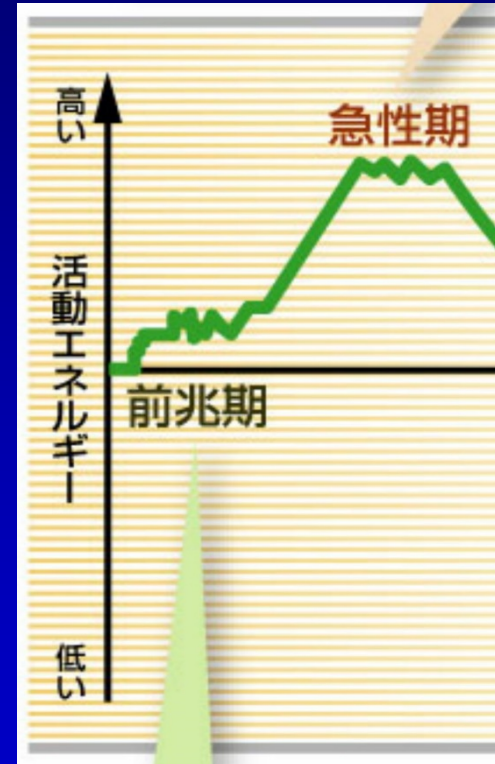
ゆっくり発症し急性期へ移行

● 前兆期

活気がなくなる、成績が落ちるなど徐々に発症することが多い

● 急性期

幻覚、妄想、興奮症状がよく出現する急性期へ移る



急性期

現実にはない声が聞こえたり(幻聴)、誰かに監視されている、狙われているといった妄想が現れ、極度な不安や恐怖感を感じます。

いらいらして落ちつかなくなり興奮する人もいれば、1日中部屋に閉じこもって独り言を言ったり、一人でにやにや笑う場合もあります。

誰の目にも明らかなおかしい行動がみられ、家族の方が異常に気付くのもこの時期です。

急性期にみられる陽性症状

- 幻覚(幻聴)

実際にはないものが見えたり、聞こえたりする

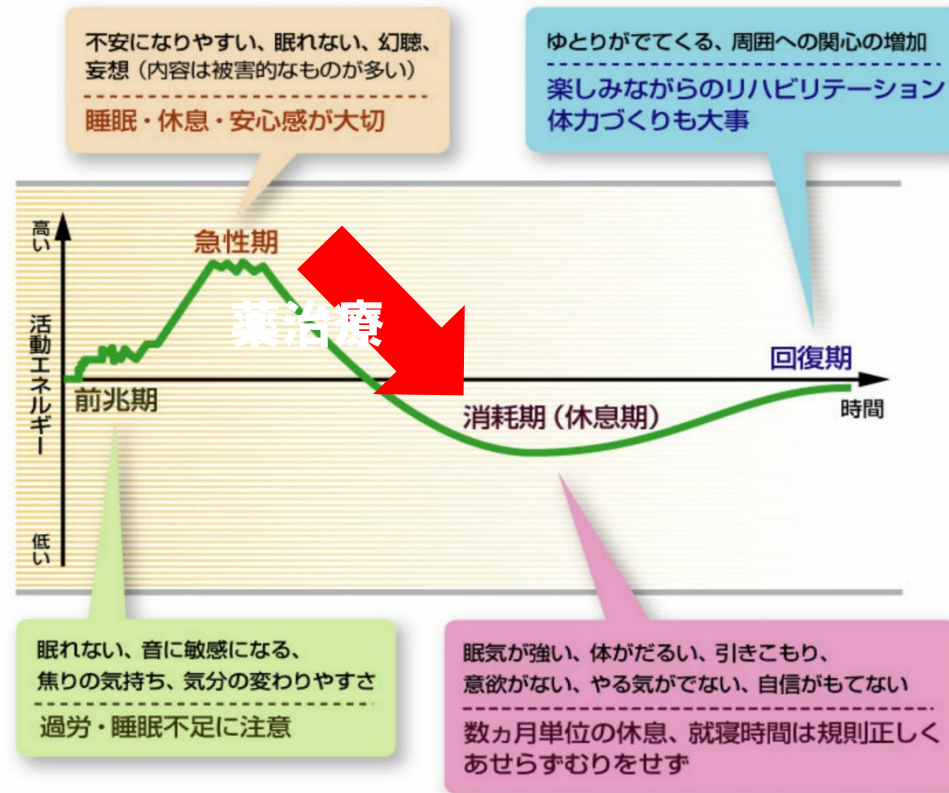
- 被害妄想

悪口を言われている、見張られているなど、実際にはありえないことを信じる

- 思考の混乱

ものごとを正確に判断・理解できない、支離滅裂な会話

薬物治療で急性期から消耗期へ



消耗期

急性期の症状が落ち着いた頃から、疲労感が強い、身体が重くて気だるいといった無気力な状態が目立つようになります。睡眠もだらだらと長くなります。

これは急性期に消耗したエネルギーを充電するために脳が休息している状態で、回復に向かう過程で見られる状態です。

まだまだ不安定な時期で、強いストレスなどによって再発することもあるため、患者様を焦らせないようにしましょう。

消耗期にみられる陰性症状

- 感情の低下

周囲に対して無関心、表情や声の感情表出が乏しくなる

- 意欲低下

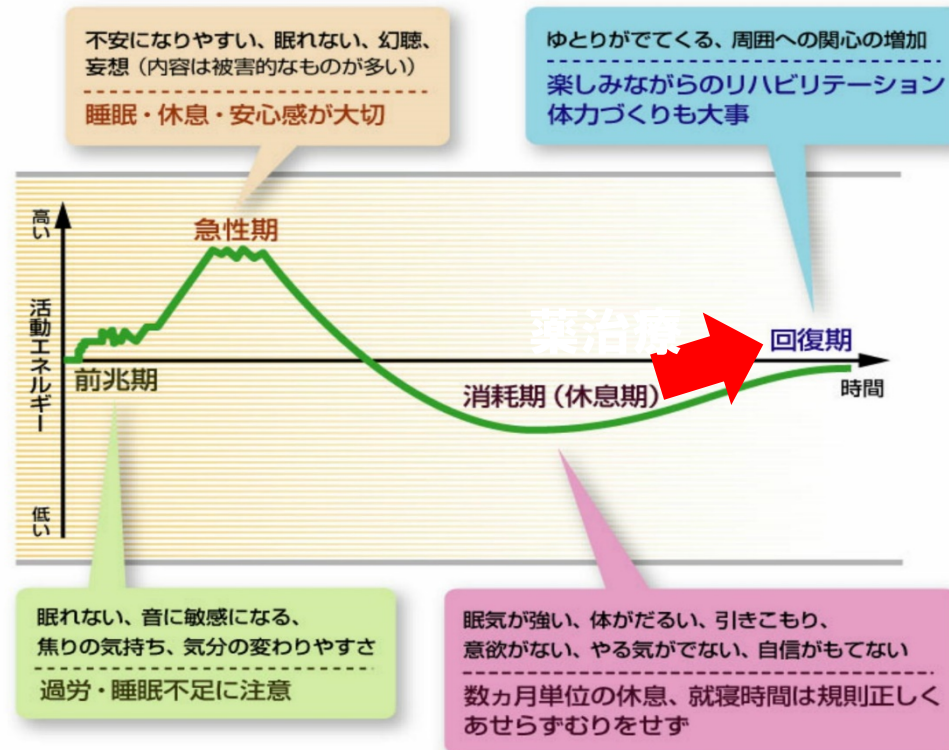
注意力、集中力が続かない、身だしなみに無関心になる

- 思考と会話の貧困

コミュニケーション能力の欠如、社会的ひきこもり

- 過剰な睡眠

消耗期から回復期へ



回復期

少しずつ睡眠時間が短縮し、活動性も増加し、会話も増えてきます。

この頃になると、多少のストレスにも耐えられるようになります。

回復のスピードはゆっくりですが、時期とともに少しずつ回復していきます。

ゆっくりと焦らずに治療と援助を続けることが大切です。

統合失調症の治療

- 薬物療法
- 精神療法
- 精神科リハビリテーション

薬物療法

- できるだけ早期の開始と必要十分量の使用が必要
- 症状が良くなっても、しばらくは継続が必要

薬物療法(服薬管理)

- ・ ご家族の服薬管理が必要な場合も
- ・ 拒薬傾向が強い場合には、
1回の注射で2週間の薬効が
期待できるものが有用。

薬物療法(副作用)

- ・ 絶えず足を動かし、立ったり座ったりを繰り返す
- ・ 足のむずむず感
- ・ 口の渇き、便秘、体重増加など

精神療法

- ・ 患者さんの悩みや心配事などの訴えに耳を傾け、一緒に考える
- ・ 病気の特徴や治療法、取り組み方などを説明する

精神科リハビリテーション

- ・ 患者さんの社会的引きこもりを防止する
- ・ 来るべき社会復帰に向けたリハビリテーションが必要

精神科リハビリテーション

- ・ 作業療法
- ・ 生活技能訓練(SST)

作業療法

- 実生活における活動
 - …袋はり、木工、農耕など
- レクリエーション
 - …卓球、ジョギングなど
- 芸術活動
 - …絵画、音楽など

生活技能訓練(SST)

- 認知行動療法的一种
- 社会的認知機能の歪みを
自覚し、正しい方向に持っていく
ことができるようにする

生活技能訓練(SST)

- 服薬管理、身だしなみ、食事の支度、金銭管理などの一定の課題に対し、解決方法を考える
- 最終的には、自立した社会生活を目指す

家族対応

- ・ 統合失調症の概要
- ・ 統合失調症の治療
- ・ 統合失調症患者さんの家族対応

統合失調症患者さんの家族対応

孤立感を埋めてあげることが大事！

- ・相手の気持ちをわかってあげる
- ・受容的な態度で接する
- ・生きているだけで立派なんだと認める

相手の気持ちをわかってあげる

- ・ 幻覚や妄想は、否定も肯定もしない
- ・ 感情的に批判したりせず、
温かく見守る

受容的な態度で接する

- ・話をよく聞いてあげる
- ・ほめ上手になる
- ・希望を持って接する

患者さんが抱える生活のしづらさ

- ・生活技術の不得手
- ・対人関係
- ・就労能力の不足

生きているだけで立派だと認める

- ・生活のしづらさという重荷を
背負って一生懸命に生きている
- ・生きているだけで立派なこと
なのである

大事ななのは、患者さんの
孤立感を埋めてあげること

孤立感を唯一埋めてあげることが
できるのが、ご家族の力です！



統合失調症の予後

予後調査の結果、患者様の3 /4は発症前と同じような生活ができるまでに回復しています

- 患者様の20～30%は社会生活に支障のない程度まで回復・治癒します

- さらに軽度の症状が残るものの、ほとんど発症前と同じような生活ができる人も含めると、患者様の3 /4はかなり良好な状態まで回復します

統合失調症は再発しやすい

「再発のしやすさ」がこの病気の大きな特徴です。

一緒に生活しているご家族なら、患者様の雰囲気
がいつもと違う、何か様子がおかしいという
再発の兆候を敏感に察知することができます。

再発のサインとして、何かおかしいと感じたら早
めに主治医に報告してください。

再発を防ぐために

- 回復を焦らせないこと

症状は良くなったり悪くなったりを繰り返しながら
少しずつ回復していきます

- 社会復帰を急がない

過度の対人ストレスが再発を引き起こす可能性
があります。

- 服薬を継続すること

最も良い状態まで回復した人でも、服薬を中断すると1年以内に60～70%の方が再発するといわれています。

医師→家族、支援者に望むこと

医師には、診察室でのご本人の状況しか見えません。

ご本人からは、主観的な情報しか得られませんが、診断、治療には客観的な情報も必要です。

ぜひ一緒に病院まで足を運んで下さい。

精神保健福祉士もご活用下さい。

ご清聴ありがとうございました。